



テキストデータと バイナリデータの 使い方

© 2002-2008 Unify Corporation All rights reserved. Sacramento California, USA

No part of this tutorial may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Documentation Group values and appreciates any comments you may have concerning our documents. Please address comments to:

doc@unify.com

1-800-24 UNIFY or 1-800-GO-UNIFY;(916) 928-6400
FAX (916) 928-6401

UNIFY and DataServer are registered trademarks of Unify Corporation. Unify NXJ is a trademark of Unify Corporation. Java and J2EE are registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries. JReport is a trademark of Jinfonet Corporation. IBM, Lotus, Lotus Notes, Cloudscape, and WebSphere are trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both. CAS AHL Technology and ecKnowledge are registered trademarks of CAS AHL Technology, Inc. in the U.S. and other countries. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

Name: Working with Text and Binary Data

Release: Unify NXJ 12

Last Revision: January 23, 2009 2:58 pm

テキストデータと バイナリデータの使い方

データベースのテキストデータおよびバイナリデータへのアクセスは、ほとんどコーディングをすることなく、データベースの他のデータ型へのアクセスと同じくらい容易に実現することができます。このドキュメントでは、テキストデータとバイナリデータに対して NXJ アプリケーションからどのようにアクセスするかを説明します。

テキストデータへのアクセス

データベースの他のキャラクタデータへのアクセスと同様、データベース（例えば、Oracle の CLOB や LONG フィールド）のテキストデータにアクセスすることができます。テキストデータは、どんな NXJ フィールドコントロールに対してもターゲットフィールドとして割り当てることができます。通常、これは複数行を含むテキストをサポートするテキストエリアコントロールになります。一旦、コントロールにフィールドを関連付ければ、データの取り出しや編集、他のデータベースフィールドと同様の検索を実行することができます。

データベースフィールドに対し、NXJ プログラミング言語スクリプトからのアクセスのみを必要とするのであれば、`NullableTextVariable` クラスを使用して、スクリプトに変数を宣言することができます。フィールドコントロールと `NullableTextVariable` は、新しいプロパティである `mimeType` を持っています。このプロパティは、フィールドの内容がどのようにブラウザに表示されるかを管理するために使用されます。（次のセクションを参照してください。）

URL としてテキストフィールドの内容を表示する

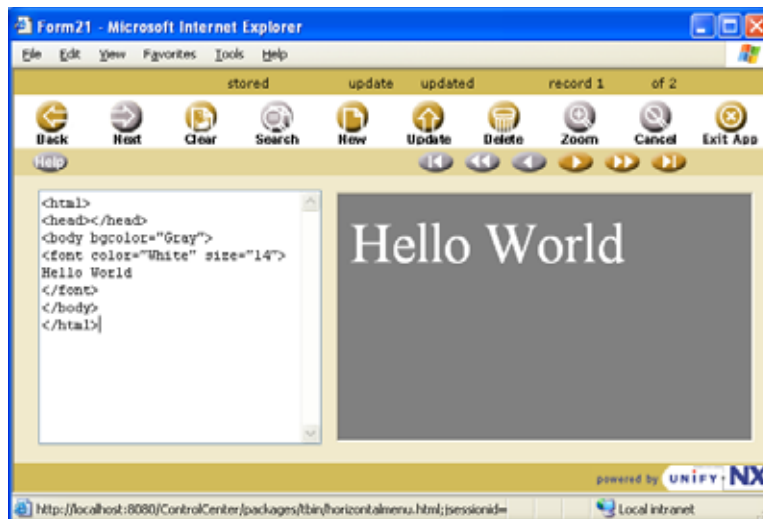
テキストフィールドコントロールが、URL（例えば、それが HTML ソースを含んでいる場合）としてアクセスするデータを含んでいる場合、リンクコントロールとインラインフレームコントロールは、まるでそれが Web アプリケーションのドキュメントであるかのように、テキストデータを取り出すための新しい構文をサポートします。リンクコントロールの Href プロパティとインラインフレームコントロールの Source プロパティは、以下の構文を使用して設定することができます。

```
=&[<data view name>.]<variable name>[; <mime type>]
```

変数がフォーム上のデータビューのメンバであるときのみ、データビュー名が必要とされます。mime type（例：'text/html'）は、オプションです。

ユーザがリンクをクリックすると、この構文を使用するリンクは新しいウィンドウの URL として、テキストフィールドの内容を表示します。内容が変更される場合は常に、インラインフレームはその URL としてテキストフィールドの内容をロードします。

下図は、テキストフィールドの内容を示しているテキストエリアコントロールと、そのソースとして同じ内容を示しているインラインフレームのサンプルです。



注： 変数が Null の場合、エラーページが表示されるかもしれません。あるいは、ブラウザが内容をロードしようとしたときに、空のドキュメントをダウンロードするかもしれません。

=& 構文は、java.lang.String または java.util.StringBuffer 型変数のためにも使用できます。

バイナリデータへのアクセス

バイナリデータは、一般的にフィールドコントロールに関連付けられません。代わりに、通常は `NullableBinaryVariable` クラスを使用してスクリプト内で変数を宣言します。テキスト変数クラスのように、このクラスも `mimeType` プロパティを持っています。

バイナリデータの使用が実際に効果を発揮するのは、URL リファレンスとして使用される時です。テキストデータのように、リンクとインラインフレームは、同じ `'=&'` 構文を使用する URL として、バイナリ変数を示すことができます。バイナリデータは、ブラウザの通常の方法でブラウザによって開かれるか、ダウンロードされます。例えば、Microsoft Word ドキュメントがバイナリフィールドに格納される場合、ブラウザは Microsoft Word を使用してデータを開きます。

また、フィールドがイメージファイル（例えば、jpeg、png 等）を含む場合、イメージ、イメージボタン、リンクコントロールの `Source` プロパティとして、バイナリ変数を指定するために `'=&'` 構文を使用することができます。例えば、イメージとしてフォームに表示したい `ICON` という名前のデータベースフィールドがあり、そこにすべてのイメージが jpeg として格納される場合は、フォームにイメージコントロールが追加され、以下の構文が `Source` プロパティに設定されます。

```
=&ICON;image/jpeg
```

フォームスクリプトでは、変数は以下のように宣言されます。

```
multi_valued NullableBinaryVariable ICON;
```

注： 変数が、Null または有効でないイメージの場合、`'image missing'` アイコンが表示されます。

`'=&'` 構文は、`byte[]` 型変数のためにも使用できます。

テキストとバイナリデータのアップロード

ファイル選択コントロールは、データベースへの保存やコードでの処理のために、アプリケーションにテキストデータとバイナリデータをアップロードするための機能を実現するために使用することができます。

フォームにファイル選択コントロールを追加するには、最初にツールバーの `File Chooser` コントロールをクリックします。次に `File Chooser` コントロールを配置するフォーム上の場所をクリックします。ファイル選択コントロールは、テキストフィールドと `"Browse"` とタイトル付けられたボタンで表示されます。フォームには必要なだけファイル選択コントロールを追加することができます。

ファイル選択コントロールには、このコントロールに固有の3つのプロパティがあります。

- Storage Variable プロパティは、アップロードしたファイルを格納したい NXJ 変数を指定するために使用されます。変数がデータビューのメンバである場合、名前に <data view name>.<variable name> としてデータビューから完全指定しなければなりません。
- Allowed Mime Types プロパティは、ユーザがアプリケーションへのアップロードを許可するファイルのタイプを制限します。ドロップダウンにリストされた mime type の1つを選択するか、またはセミコロンで区切ることで複数の mime type を入力することができます。
- Size Limit プロパティは、ユーザがアプリケーションへのアップロードを許可するファイルの最大のサイズを制限します。受け取りたい最大のファイルサイズをこのプロパティに設定します。この数は、HTTP プロトコルを処理するうえで若干のオーバーヘッドを概算するため、指定した数値より若干大きめのファイルをアップロードできるかもしれませんが、多くても 1024 バイトを超えることはできません。

これらのプロパティはそれぞれ、NXJ プログラミング言語スクリプトから変更することもできます。詳細については、「Unify NXJ フォームプロセッシング API」を参照してください。

作業方法

ファイル選択コントロールがフォーム上にある場合、以下の表 1 に含まれるコマンドのどれかが呼び出されると、ファイル選択コントロールのテキストフィールドに入力された文字列によって指定されたファイルは、アプリケーションにアップロードされます。(フォームが Find モードの場合、ファイル選択コントロールは利用できないことに注意してください。) ファイルは、その後 Storage Variable プロパティによって指定される変数に保存されます。レコードが更新される時、変数の値はデータベースに保存されます。

Add/Update	Previous Record	Next Form
Delete Record	Previous Set	Zoom
Clear To Find	First Record	Cancel Zoom
Next Record	Last Record	All Developer-Defined
Next Set	Previous Form	Commands

アップロード処理のカスタマイズ

ここまでに記述してきたステップでは、NXJ プログラミング言語コードを書くことなく、アップロードとデータベースへのファイルの保存を実現してきました。アップロードの動作をカスタマイズする必要がある場合、ファイル選択コントロールは ON UPLOAD と WHEN UPLOAD COMPLETE の2つコードセクションを追加することができます。

ON UPLOAD コードセクションは、Storage Variable プロパティを設定する代わりに使用することができます。このコードセクションが定義される場合、Storage Variable プロパティは無視され、ユーザ自身でファイルの格納を処理しなければなりません。このコードセクションには、4つの引数が渡されます。最初の引数は、ファイルを読み込む `java.io.InputStream` オブジェクトです。第二の引数は、アップロードするファイルの mime type を含む String です。第三の引数は、アップロードするファイルのサイズを含む `int` です。そして第四の引数は、アップロードするファイルの文字コードを含む String です。

実行システムがアップロードを完了した後、WHEN UPLOAD COMPLETE コードセクションが呼び出されます。セクションには、`java.lang.String` としてアップロードされたファイルの mime type が渡されます。ここでは、アップロードされたファイルの確認や、別のフィールド変数に mime type を保存する、といった処理をコードに追加することができます。

(以降の問題発生時の処理の例を参照してください。) ここでエラーを見つけた場合、`rejectOperation()` を呼び出すことにより、フォーム上の操作の処理を中止することができます。

以下のサンプルコードでは、読み込んだファイルをディスクに保存し、ファイルの保存場所を別のフィールド変数に保存しています。

```
ON UPLOAD (
  java.io.InputStream iStream,
  String contentType,
  int contentLength,
  String characterEncoding
)
{
  // getUniqueFileName is declared elsewhere
  File storLoc = new File("c:/tmp/" + getUniqueFileName() );
  BufferedOutputStream oStream = new BufferedOutputStream(
  new FileOutputStream( storLoc ) );
  int nextByte = 0;
  while ( ( nextByte = iStream.read() ) >= 0 )
  {
    oStream.write(nextByte);
  }
  oStream.close();

  // Put the file name in another variable
  FILENAME = storLoc.getAbsolutePath();

  // Save the mime type
  MIMETYPE = contentType;
}
```

問題発生時の処理

ユーザが、ファイル選択コントロールのテキストフィールドにファイル名を入力ミスした場合、ブラウザは空のファイル (length = 0) を “application/octet-stream” mime type でアップロードしようとしています。これは2つの方法でデータベースに挿入されることを防ぐことができます。

1つ目の方法として、Allowed Mime Type プロパティに “application/octet-stream” を含まないように設定することができます。これは、ファイルのアップロードを拒否して、ファイル名に入力ミスの可能性があることを示すエラーメッセージをユーザに表示します。

2つ目の方法は、WHEN UPLOAD COMPLETE コードセクションを実装することです。このコードセクションでは、contentType が “application/octet-stream” と等しくかつ、バイナリ変数の length が 0 であるかを確認します。その場合、ユーザにメッセージを表示することができ、フォーム上の操作の処理を中止するために、rejectOperation() を呼び出します。コードは、以下のようになります。

```
WHEN UPLOAD COMPLETE (
String contentType
)
{
if ( contentType.equals("application/octet-stream")
&& myBinVariable.getByteArray().length == 0 )
{
session.displayToMessageBox(
"Please check the spelling of the file. "
+ "And try again." );
rejectOperation();
}
}
```